

2 工事監査

平成28年は、平成27年度に締結した100万円以上の工事を中心に監査を実施し、指摘事項31件、意見・要望事項3件を行いました。

指摘事項等34件を区分別に整理すると、表のとおりです。

区分	件数	主な内容	
設計	2件	選定基準に基づき適正に設計を行うよう求めたもの	
積算	単価設定	13件	システムを活用して単価設定を適正に行うよう求めたもの 適正な単価を用いて積算するよう求めたもの
	諸経費等	8件	適正な諸経費率を用いて積算するよう求めたもの
施工	8件	強度試験や安全対策について受注者を適切に指導・監督するよう求めたもの	
その他	3件	汚泥処理を適正に行うよう求めたもの	
合計	34件		

技術職員の専門性



工事監査は4職種（土木、建築、電気、機械）の技術職員が担当しています。それぞれの職種の専門性を活かし、各工事の計画、設計、積算、施工等の各段階において監査を実施しています。



工事監査の様子

監査を行うに当たっては、事前に対象局から100万円以上の工事調書の提供を受け、契約金額や落札率などに着目しながら、監査する工事案件を抽出しています。

重点監査事項

公共工事における品質確保には、適切な施工管理が必須です。しかし、

- ① 東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向けたインフラ整備や東日本大震災の復興事業による工事の増加
- ② 都発注工事における契約不調の発生や工事経験が浅い若手職員の増加
- ③ 環境への配慮等の技術的な課題に対応するため、特殊工法及び新技術の採用が増加し、従来に増して高度な施工管理が必要

といった課題があることから、平成28年は「**施工管理**」を重点監査事項に設定し、公共工事の品質確保の観点から「施工管理は関係基準等に基づき適正に行われているか」などの着眼点で監査を行いました。

その結果、4局に対し7件の是正すべき事項が認められたため、改善を求めました。

主な指摘事項

のり面保護工の設計に適正な工法を選択していなかったもの【設計】

のり面（人工的な斜面）を保護するための工事において、砂質土など柔らかい土に用いる工法を採用していました。しかし、選定基準に基づき、本工事の土質を考慮し選定した場合、礫質土など硬い土に用いる工法を採用することが適正でした。
そのため、適正な工法を採用して設計することを求めました。

覆工板開閉工の積算を適正に行っていなかったもの【積算（単価設定）】

雨水排水能力の増強を図るための工事で、覆工板（地盤を掘削する工事において、車両通行のため開口部を覆う板）の開閉に使用する機械としてトラッククレーンを選ぶべきでしたが、誤って割高なクレーン機能付バックホウ（掘削機械）を選んで積算したため、積算額が過大になっていました。
そのため、適正に積算することを求めました。



適正な諸経費率で積算されていなかったもの【積算（諸経費等）】

専門工事業者に直接工事を発注する場合は、一般的な建築工事より低減された諸経費率を用いると積算基準で定められています。しかし、防水工事を専門工事業者に直接発注しているにもかかわらず、一般的な建築工事の諸経費率を用いたため、積算額が過大になっていました。
そのため、適正な諸経費率で積算するよう求めました。

埋戻し復旧後の強度試験が十分に行われていなかったもの【施工】

配水管工事において、道路等の埋戻し復旧後の強度試験は、締固めを行った各層ごとに行うものと工事標準仕様書で定められています。しかし、配水管小規模整備工事において、強度試験が各層ごとに行われておらず、埋戻し最上面のみで行われている事例が認められました。
そのため、強度試験について受注者を適切に指導・監督するよう求めました。

掘削作業の安全対策が確実に行われていなかったもの【施工】

深さ1.5m以上の根切り（基礎や地下構造物を作るための掘削作業）工事を行う場合、崩落を防ぐ山留めを設ける必要があります。
しかし、浄化槽の設置において、深さ2.67mの掘削作業が発生しているにもかかわらず、山留めが行われていませんでした。さらに、掘削面が一部崩落している状況の中で作業を行っていることも認められました。
そのため、掘削作業の安全対策について受注者を適切に指導、監督するよう求めました。

